

14

事例掲載

30年の歩みとともに、
これからの**挑戦**へ。

 **PERCH**

30TH 

支援事例集

佐賀県産業イノベーションセンター



 **PERCH**
佐賀県産業イノベーションセンター

MESSAGE



ごあいさつ

当センターは、このたび、設立**30周年**という
節目を迎えることとなりました。

長年にわたり当センターの事業を支えてくださった企業・関係機関の皆様、そして歴代役職員の
たゆまぬ取組に、心より深く感謝申し上げます。

この30年、地域経済を取り巻く環境は激しく変化してまいりました。その中にあっても、県内企
業の皆様は絶えず挑戦を続け、新たな価値を生み出しながら地域を力強く支えてこられました。
当センターもまた、時代ごとの課題に向き合い、経営支援や技術支援など多角的なサポートに努
めてまいりました。

近年、急速なデジタル化やAIの台頭など、経営環境はかつてないスピードで変化しています。
こうした時代だからこそ、当センターは昨年度、新たな施設の愛称として「PERCH(止まり木)」
を掲げました。ここには、企業に寄り添い、羽を休め、次の飛躍へ向かう拠点でありたいという
想いを込めています。

私たちはこれからも、未来へ挑戦する皆様の課題解決と成長を全面的にバックアップしてまいり
ます。30年の歩みを礎に、地域産業のさらなる発展に貢献できるよう、役職員一同、決意を新た
に取り組んでまいります。今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

佐賀県産業イノベーションセンター

所長 藤本 武

PERCH(パーチ)

それは、高く、安全な止まり木。

鳥が羽ばたく前に立ち止まり、視野を広げる場所。

私たちは、そんな存在でありたいと考えています。

未来を見つめる
企業に、
次の視点を。

HISTORY

沿革

統合・設立**30周年**

地域とともに歩んだ30年、
これからも**未来**へ。

1996年 (H8)

財団法人
佐賀県地域産業支援センター設立
〈経営相談事業開始〉

歩み

2026年 (R8)

設立30周年

1967

1967年 (S42)
財団法人佐賀県中小企業機械貸与公社設立
〈設備貸与事業開始〉

1976

1976年 (S51)
財団法人佐賀県中小企業振興公社設立
〈取引あっせん事業開始〉

1983

1983 (S58)
佐賀県中小企業情報センター設立
〈情報化支援事業開始〉

1989

1989 (H1)
財団法人 佐賀県産業技術情報センター設立
〈研究開発支援事業開始〉

1996

異なる想いが、
ひとつの力になるために。

1997

1997年 (H9)
中小企業勤労者福祉サービスセンター開設
〈福利厚生支援事業開始〉

1998

1998年 (H10)
現在地(佐賀市鍋島町)に移転

2012

2012年 (H24)
「公益財団法人」の認定を受け
公益財団法人佐賀県地域産業支援センター
として事業開始

2013

2013年 (H25)
「経営革新等支援機関」の認定を受け事業開始

2014

2014年 (H26)
「よろず支援拠点事業」(中小企業庁)開始
6次産業化・農村ビジネス支援事業開始

2021

2021年 (R3)
「(公財)佐賀県産業振興機構・佐賀県産業
イノベーションセンター」へ名称変更

2025

2025年 (R7)
PERCH(パーチ)の愛称・ロゴ決定

2026

PERCH

ABOUT US

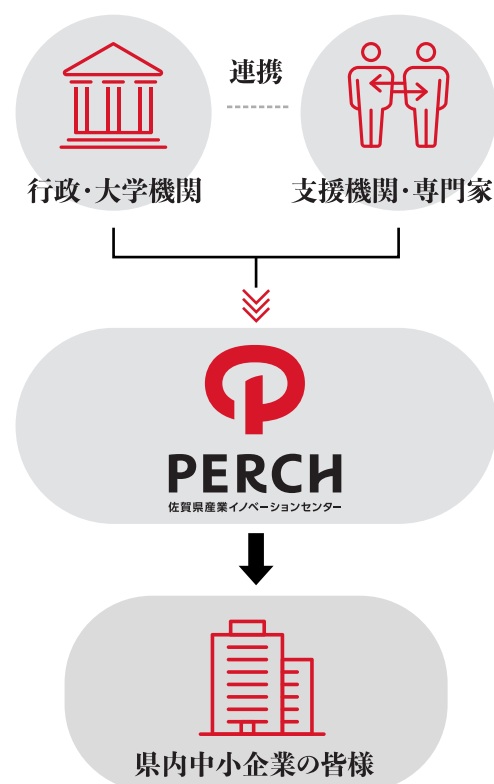
佐賀県産業

イノベーションセンター(PERCH)とは

県内中小企業の生産性向上や売上向上、新商品・新製品開発、人材確保などの様々な経営課題の解決に向けた支援を行っている中小企業支援機関です。

DX・GXへの対応や、賃金アップに向けた取り組みなど、企業の持続的成長を支える多様な支援を行っています。

成長性の高い企業や新たな取り組みに挑戦する企業を支援し、県内産業の発展に貢献します。



支援内容

企業の成長ステージや課題に応じた多様な支援メニューをご用意しています。

IT・DX・GX	新商品・新事業	生産性向上・改善	売上拡大	人材確保・補助金支援
IT・DXの推進やGXへの対応など、持続的成長に向けた基盤づくりを支援します。	新商品・新事業の開発支援、研究開発・知的財産活用など、新たな価値創出を支援します。	技術力向上や生産効率化、経営改善、現場改善・品質管理など、競争力強化に向けた支援を行います。	新しい取引先の開拓、自社の製品や技術の販路拡大など、企業の売上拡大のための支援を行います。	人材確保・育成支援や、各種補助金・専門家派遣など、経営課題に寄り添った支援を行います。



佐賀県内中小企業の皆様から**信頼され、頼られる存在**へ。

経営課題の解決に向けたチャレンジを支援し、**県内産業の発展**に貢献します。

CONTENTS

目次

支援のかたちが、
企業の未来をつくる。
現場の**情熱**が、
地域の力になる。

30年間、私たちは共に走り続けてきました。

その一步一步が、今日の成果につながっています。

これからも、挑戦に寄り添い、未来へ伴走していきます。

01	森鉄工株式会社	P.05
信頼が、次への挑戦の原動力に		
02	聖徳ゼロテック株式会社	P.07
支援が、挑戦を後押しした		
03	株式会社太平プレテック	P.09
工場の技術を、ブランドへ変える		
04	有限会社ミマツ工芸	P.11
木を生かし、暮らしに美意識を届ける		
05	株式会社深海商店	P.13
400年の青を、未来へひらく		
06	株式会社金龍窯	P.15
守り継ぐ、その技と価値		
07	理研農産化工株式会社	P.17
データで磨く、佐賀県産小麦の可能性		
08	株式会社唐津プレシジョン	P.19
100年の技術を、解析で進化させる		
09	株式会社sueco	P.21
日本の田舎から、豊かさを問いなおす		
10	本間農園	P.23
卵から、暮らしの価値を届ける		
11	株式会社小嶋や	P.25
手づくりを守りながら、効率化へ		
12	有限会社小松鉄工所	P.27
水門を支え、会社を変える		
13	株式会社一新堂	P.29
見える化が、現場を変える		
14	株式会社ソーア	P.31
働き方を、もっと自由に		
	支援フロー・担当窓口	P.33
	ABOUT「PERCH」	P.34

PERCHと共に歩んだ30年と支援の軌跡

1922	創業期	成長期	進化期	現在
断らないことが、 技術の原点だった	成長への 土台づくり	販路開拓・ 展示会支援	設備導入支援・ 技術開発支援	海外展開・ 人材育成



01

信頼が、次への挑戦の原動力に。

森鉄工株式会社は、1922年の創業以来、各種液圧プレス・鍛圧機械の設計・製作を通じて、日本のものづくりを支えてきました。お客様の要望に応え続ける中で培った技術と信用・信頼を礎に、新たな市場や技術への挑戦を続けています。PERCHとの30年にわたる歩みの中で積み重ねてきた**挑戦**と**実績**。その資産は、次の100年へ向かう**原動力**となっています。

森鉄工株式会社

MORI IRON WORKS Co., Ltd.

業種 | 製造業(液圧プレス・鍛圧機械製造)

所在地	佐賀県鹿島市大字井手2078
創業	1922年
従業員数	145名
事業内容	各種液圧プレス・鍛圧機械の設計・製作
主力商品	高精度液圧プレス機
	ファインブラッキングプレス・オーダーメイド専用機

MORI IRON WORKS Co., Ltd.

I 創業期

成長への土台づくり

断らないことが、 技術の**原点**だった

森鉄工のものづくりは、お客様の要望に応えることから始まった。既製品では対応できない課題に向き合い、一台一台をオーダーメイドで製作。前例のない相談にも挑戦し続けることで技術を磨き、独自の強みを築いてきた。「できない」と断るのではなく、「どうすればできるか」を考える。その姿勢は創業以来、現在まで受け継がれている。



断らない姿勢が、技術を磨いてきた。

II 成長期

販路開拓・展示会支援

出会いが、 新たな市場を切り拓いた

PERCHによる展示会や商談会への出展支援を活用し、多くの企業との出会いを重ねてきた。トヨタ自動車をはじめとする大手メーカーとの接点も生まれ、自社技術を広く知ってもらう機会となった。新たな販路の開拓だけでなく、市場ニーズや業界動向を知る場としても大きな役割を果たしている。人とのつながりが新たな仕事を生み、森鉄工の成長を支えてきた。



現場と設備の進化が、森鉄工を支えてきた。

III 進化期

設備導入支援・技術開発支援

できないを超え、 次の時代へ

戦略的基盤技術高度化支援事業を活用した研究開発では、多軸精密制御による次世代型プレス機の開発に挑戦。開発成果は主力製品へとつながり、新たな市場開拓にも貢献した。創業以来受け継がれてきた挑戦の精神は、研究開発やデジタル化、人材育成へと形を変えながら、次のものづくりへ受け継がれている。



技術開発と挑戦が、新たな市場を切り拓く。

これからの取り組み

「**できる方法を考える**」それが森鉄工の仕事です。前例がない、難しい、誰もやったことがない。そんな相談にも向き合いながら、私たちは技術を磨いてきました。お客様ごとに異なる課題に応え、**一台一台を最適な形へつくり上げる。それが森鉄工のものづくりです。**これからも挑戦する姿勢を大切にしながら、新しい技術や市場にも目を向け、次の時代に必要とされるものづくりを続けていきます。

森鉄工株式会社
公式ホームページ



PERCHと共に歩んだ30年と支援の軌跡

1975	創業期	成長期	進化期	現在
ものづくりへの 挑戦がはじまる。	設備導入支援	販路開拓・ 展示会支援	現場改善・ 人材育成	デジタル化・ 次世代への挑戦



02

支援が、挑戦を後押しした。

聖徳ゼロテック株式会社は、1975年の創業以来、精密プレス金型の設計・製造を中心に、自動車・電機・産業機器分野など幅広い分野で技術力を培ってきました。設備投資、販路開拓、現場改善、人材育成、デジタル化など、PERCHの継続的な支援を受けながら、**挑戦**を重ねてきました。その**積み重ね**が、次のものづくりへとつながっています。

聖徳ゼロテック株式会社

SHOTOKU ZEROTECH Co., Ltd.

業種 | 製造業(精密プレス金型設計・製造)

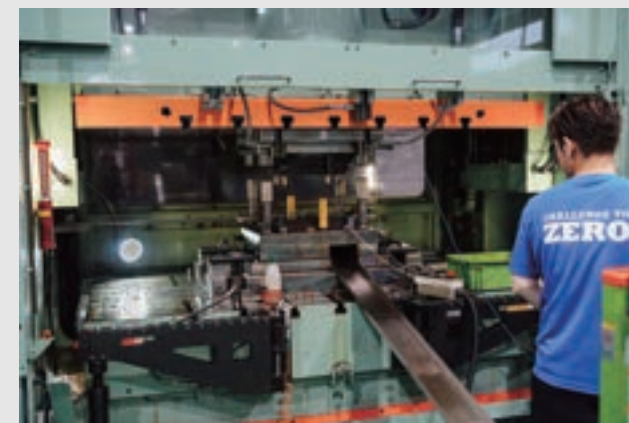
所在地	佐賀県佐賀市西与賀町高太郎172
創業	1975年
従業員数	30名
事業内容	順送金型・ハイブリッド金型を中心とした 精密プレス金型の設計・製造・販売
主力商品	順送金型・ハイブリッド金型・超精密部品加工

PERCH 30th ANNIVERSARY

I 創業期 設備導入支援

設備を入れることが、 次の仕事への**挑戦**だった

創業期、導入した設備が新たな加工領域への入口となった。自己資金だけでは導入が難しかった高精度マシニングセンタや高速プレス機、測定器などを設備貸与事業を活用して導入できたことによって、技術力と加工精度は大きく向上。新しい仕事へ挑戦するため、設備投資を重ねてきた。その積み重ねが、現在の技術基盤につながっている。



導入を重ねた設備が、次の挑戦を支えてきた。

II 成長期 販路開拓・展示会支援

現場を磨くことが、 会社を強くしていった

展示会・商談会への参加支援、生産技術研究会、5S活動、各種セミナー。PERCHによる継続的な支援は、販路開拓だけでなく、現場改善や人材育成にもつながっていった。「なぜそうなるのか」を考え、改善を積み重ねる。社員一人ひとりが気づき、考え、行動する文化が、現場の中に根づいている。



改善を積み重ねる現場が、会社の強さをつくってきた。

III 進化期 現場改善・人材育成

受け継ぐだけじゃない。 **まだないもの**を、つくる。

ハイブリッド金型やスマート金型の開発、医工連携への取り組み、社内デジタル化の推進。原価や利益構造、生産性を見える化し、感覚だけではなく、数字を共有しながら改善を進めている。先代が築いてきた土台を受け継ぎながら、時代に合わせた新たな事業モデルへの挑戦が続いている。



現場力とデジタル、その両輪で次のものづくりへ。

これからの取り組み

「受け継ぐだけではなく、自分たちの世代で新しい価値も残していきたい」それが聖徳ゼロテックの挑戦です。創業当初、設備を導入すること自体が大きな挑戦でした。30年にわたる支援の積み重ねが、企業の成長を支え、次の挑戦へとつながってきました。これからも培ってきた**技術と信頼を礎に、新しいことへ挑戦しながら、次の時代に必要とされるものづくりを続けていきます。**

聖徳ゼロテック株式会社
公式ホームページ



03

工場の技術を、 ブランドへ変える。

株式会社太平プレテックは、自動車部品向けの金属プレス加工や金型設計・製作を手掛けるものづくり企業である。1949年の創業以来、シート部品やインパネ構成部品など、自動車産業を支える製品づくりを続けてきた。同社の強みは、プレス加工だけでなく、金型設計・製作までを自社で一貫対応できる体制にある。長年培ってきた技術力と品質対応力を武器に、自動車関連分野で信頼を積み重ねてきた。コロナ禍や半導体不足など、自動車業界を取り巻く環境が大きく変化する中で新たに組み込んだのが、自社ブランド「**metalyist**（メタリスト）」の立ち上げだった。

株式会社 太平プレテック

TAIHEI PRETEC Co., Ltd.

業種 | 製造業(金属製品製造業)

所在地 | 佐賀県佐賀市大和町大字川上157番地
創業 | 1949年
従業員数 | 34名
事業内容 | 自動車部品のプレス加工、金型設計・製作
主力商品 | シート部品、プレス加工用金型
| インパネ構成部品などの金属プレス加工製品

加工技術を、自社ブランドへ

I 技術を、 新しい市場へ

コロナ禍や半導体不足などの影響により、自動車関連事業は大きな影響を受けた。受注変動への不安も高まる中、「自社の技術を別の分野へ活かさないか」という想いが社内で強くなっていった。その中で着目したのが、アウトドア製品や高価格帯インテリア雑貨など、BtoC市場で伸びていた高付加価値製品分野だった。



自動車部品で培った技術を、次の分野へ。

II 使う人に、 直接届くものづくり

令和4年度「ものづくり企業イノベーション促進補助金」を活用し、BtoC市場を意識した高機能・高美観金属製品の開発とブランディングに取り組んだ。その第一弾として開発したのは、これまで培ってきたプレス等の技術を活かし、加工の難しいチタンを使った子ども向けカトラリー。従来の工業製品とは異なる、使う人に直接届くものづくりへの挑戦だった。



挑戦を続ける現場が、新しいものづくりを支えている。

III 社内にも、 生まれた変化

若手社員を中心にチームを編成し、既存事業と並行して商品開発を推進。使う人を想い、細部までこだわった自社ブランド「metalyist」が誕生した。今年2月には「東京インターナショナル・ギフト・ショー」に出展、大きな反響を得るとともに多数の引き合いが寄せられている。自社ブランドを送り出したことで、お客様から直接「ありがとう」の声をもらえるようになり、その声が、社員のモチベーションアップにもつながっている。



工場の技術を、暮らしのプロダクトへ。

これからの取り組み

PERCHには、販路開拓や現場改善など様々な支援をいただいています。今回の支援では、新たな商品開発への挑戦だけでなく社内にも変化をもたらしました。自動車部品製造で培った技術を活かしながら、「誰が使うのか」「どんな価値を届けるのか」を考える文化が根付き始めています。展示会での反応やお客様の声は手応えとなりました。今後も新たな市場や製品開発に挑戦し、技術の可能性を広げていきたいと考えています。

株式会社 太平プレテック
公式ホームページ



木を**生**かし、 暮らしに**美意識**を届ける。

有限会社ミマツ工芸は、1972年の創業以来、諸富家具や大川家具産地を支える家具部材加工会社として、木材加工技術を磨いてきた。木を削る。磨く。組み上げる。長年積み重ねてきた加工技術は、やがて自社だからこそつくれるものへと向かっていく。20年ほど前から取り組み始めたのが、小物インテリアの開発だった。毎日使うものだからこそ、手触りや質感、置いた時の佇まいも美しくしたい。地域木材や端材も、同社にとっては大切な素材の一つ。木目や色味、端材の表情まで生かしながら、「**使うほど愛着が増すものづくり**」を続けている。

有限会社 ミマツ工芸

MIMATSU KOGEI Co., Ltd.

業種 | 製造業(木材・木製品製造業)

所在地 | 佐賀県神埼市千代田町柳島1265-1
創業 | 1972年
従業員数 | 5名
事業内容 | 家具部材加工・小物インテリア開発販売
主力商品 | M.SCOOP、NENRIN、GREEN
| 木製インテリア小物各種

木工技術から、自社の美意識へ

I 価値観と技術を、 自社**ブランド**へ

家具部材加工業として培った木材加工技術を生かし、自社商品の開発に取り組んでいる。モノにこだわる人へ向けた小物インテリアは、同社の技術と美意識を伝える入口となった。また、PERCHの専門家派遣事業等による支援も受けながら、販売促進にも力をいれてきたが、部材加工の受注減少が見込まれる中、自社の強みを次の事業へどうつなげるかが課題だった。



培った技術を、暮らしのものづくりへ。

II 木の表情を、 商品の**個性**に

令和5年度ものづくり企業イノベーション促進補助金を活用し、新たな自社ブランドで天然木を素材としたインテリア製品や装飾アイテムを開発。あわせてECサイトの構築にも取り組んだ。これまで分かれていたブランドに統一感が生まれ、ミマツ工芸が大切にしてきた独自の価値観や、木の質感を生かすものづくりが伝わりやすくなった。



素材の表情を、そのまま価値へ。

III 使う人の、 暮らしの**中**へ

製品開発とHP・ECサイトのブラッシュアップにより、WEBでの認知も広がり始めた。贈答品としての購入やリピートも見え始め、工場併設ショップへの来店も増加。BtoC売上は20%増となった。自社ブランドを通して、使う人の反応が見えるようになったことは、ものづくりへの手応えにもつながっている。木を加工するだけでなく、想いを込めて届ける。その姿勢が、次の商品開発を支えている。



暮らしに寄り添い、使うほど愛着が増す、ものづくりへ。

これからの取り組み

補助事業を通じて、**自社の技術や強みを「商品」として届ける手応えを得ることができた**。今後は、自社ブランドの充実を図るとともに、地域木材や端材の有効活用にも取り組みながら、木の魅力や価値を伝える製品開発を進めていきたい。また、**使う人の声を商品づくりに反映し、暮らしに寄り添うものづくりを続けることで、新たな販路や市場の開拓にも挑戦していきます。**

有限会社 ミマツ工芸
公式ホームページ





05

400年の青を、 未来へひらく。

株式会社深海商店は、有田焼を支える呉須、色絵具、釉薬などの陶磁器用材料を製造・販売する企業である。呉須とは、有田焼の始まりとも深く関わる素材であり、400年以上にわたり受け継がれる「青」を支えてきた。同社では「**素材の価値をどう伝えるか**」という視点から、ブランディングと発信強化に取り組んできた。ものづくり企業イノベーション促進補助金を活用し、プロモーション動画やECサイト、展示空間整備などを進めることで、伝統素材の新たな価値を、国内外へ届けている。

株式会社 深海商店

FUKAUMI SHOUTEN

業種 | 製造業(窯業・土石製品製造業)

所在地 | 佐賀県西松浦郡有田町赤坂丙2351番地223
 設立 | 1961年
 従業員数 | 9名
 事業内容 | 呉須(陶磁器用青絵具)、色絵具、釉薬など
 | 陶磁器用材料の製造・販売
 主力商品 | 呉須・色絵具・釉薬・陶磁器用材料

ブランディングと発信による、陶磁器材料の価値創出

I 有田焼を支えてきた、 青

有田焼は、白い磁器に青い絵付けを施す「染付」から始まった。その青を生み出す素材が、呉須である。その呉須をはじめ、色絵具や釉薬など、陶磁器づくりに欠かせない材料を製造している。現在、有田で呉須を製造する会社は深海商店のみ。さらに西日本全体でも、同社一社だけだという。

©Seitaro Iki



呉須の品質を支える、繊細な製造工程。

II 伝えるための、 挑戦

PERCHの現場力向上支援事業による支援を受け、品質・生産性向上に向けた現場改善に取り組んできた。あわせて、「素材の価値をどう伝えるか」という視点から、発信強化も進めてきた。令和5年度ものづくり企業イノベーション促進補助金を活用し、プロモーション動画やECサイト、展示空間整備を推進。「自分たちが本当に美しいと思える形で届けたい」という想いのもと、素材の価値を伝える取り組みを続けている。

©Shinichiro Nakashima



素材の価値を伝えるため、パッケージや販促物も刷新した。

III 色が、 新しい**創作**をひらく

動画公開後は、オンライン経由での問い合わせや注文も増加。これまで接点の少なかった顧客層とのつながりも生まれている。ショールームには、陶芸家やクリエイターが訪れ、色や質感をじっくり見比べながら、新しい表現を探している。「見本を見に来た方が、4時間くらい滞在されることもあります」ショールームそのものが、創作の場として機能し始めている。

©Seitaro Iki



色を選ぶ時間そのものが、創作の入口になっている。

これからの取り組み

呉須をはじめとする陶磁器材料の品質を守りながら、その価値や魅力を伝えていきたいと考えています。ショールームには、陶芸家やクリエイターなど、さまざまな方が訪れるようになりました。そうした「**出会いの中から新しい表現や作品が生まれていくことは、私たちにとって大きな喜びです**」有田には挑戦する人や面白い人がたくさんいます。**これからも、人と人をつなぎ、新しいものづくりが生まれるきっかけをつくっていききたい**と思います。

株式会社 深海商店
公式ホームページ



06

守り継ぐ、 その**技**と**価値**。

株式会社金龍窯は、有田焼の美術陶磁器を手がける窯元である。かつては高さ3メートル級の大壺や大皿などを製造し、全国の宿泊施設や料亭へ数多く納品。有田焼の大型美術陶磁器文化を支えてきた。近年は、中国・台湾市場を中心に海外需要が広がる一方、偽造品問題という新たな課題にも直面している。同社では、佐賀県窯業技術センターの特許技術「**光彩上絵**」を活用した**偽造品対策**へ着手。PERCHが支援する知財開発補助金を活用し、高精度な三点制御式焼成炉を導入した。伝統技術を守るため、新しい技術へ挑戦する。

株式会社 金龍窯

KINRYU KILN Co., Ltd.

業種 | 製造業(窯業・土石製品製造業)

所在地 | 佐賀県武雄市山内町大字宮野347

創業 | 1978年

従業員数 | 14名

事業内容 | 有田焼美術陶磁器をはじめとする陶磁器製品の製造・販売

主力商品 | 有田焼美術陶磁器・金彩珈琲碗・煎茶碗・金彩陶磁器・

| 偽造品対策技術導入商品

偽造品対策と技術革新による、美術陶磁器の価値向上

I 大型美術陶磁器を、 支えてきた

有田焼は食器の産地として知られる一方、大壺や大皿などの美術陶磁器も生み出してきた。金龍窯は大型美術陶磁器の制作を得意とし、高度な成形・焼成技術を受け継ぐ窯元である。大型作品を制作できる窯元が減少する中、その伝統を守り続けている。近年は高級旅館やホテル、公共施設などからの依頼も増え、大型美術陶磁器への関心が高まっている。



大型美術陶磁器文化を支えてきた、金龍窯の代表的作品。

II 本物を守る、 技術への挑戦

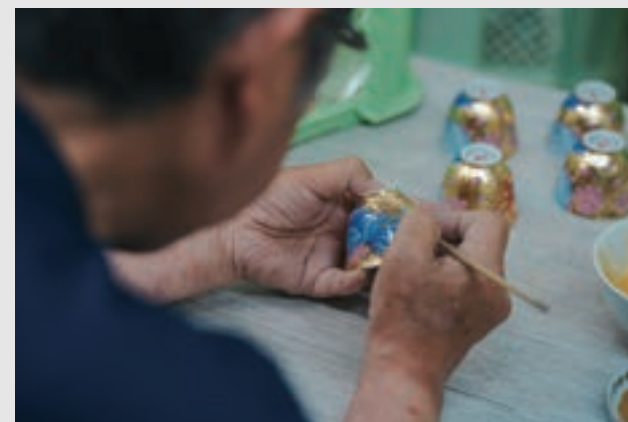
中国・台湾市場での偽造品問題に悩んでいたところ、PERCHの知財コーディネーターとの対話から着想を得たのが、佐賀県窯業技術センターの開発した特許技術「光彩上絵」。金龍窯の伝統の焼成技術と公設試の開放特許、あわせてPERCHが支援する知財開発補助金の実を結び、偽造品対策マークを開発した。自社の技術力が向上したことで、製品の品質安定化や生産効率の向上という相乗効果も生まれた。



光彩上絵技術を活用した、偽造品対策マーク。伝統工芸士 江口天童

III 伝統を、 未来へつなぐ

現在は中国・台湾市場を中心に海外需要も広がり、金彩を施した作品は高い反響を得ている。また近年は、AIやデザイン技術の活用など、新しい技術も積極的に取り入れている。「まずは人材を育てること。それが一番の課題です」人材育成と技術継承を大きな課題としながら、伝統技術を未来へつなぐ挑戦を続けている。



伝統技術を受け継ぎながら、新たな価値創出へ挑戦している。

これからの取り組み

一番の課題は、人材育成と技術継承です。長年培ってきた技術や感性を次の世代へ受け継ぎながら、新しい感覚や発想も取り入れていきたいと考えています。「**毎年でも、飽きさせない作品をつくりたい**」その想いを大切にしながら、伝統を守るだけでなく、新しい価値や表現にも挑戦し、金龍窯らしい美術陶磁器づくりを続けていきます。**若い世代にも魅力を伝えながら、人が育ち、技術が受け継がれる環境づくりにも取り組んでいきます。**

株式会社 金龍窯
公式ホームページ



データで磨く、 佐賀県産小麦の可能性。

理研農産化工株式会社は、製油・製粉・肥料事業を展開する食品メーカー。佐賀工場では、佐賀県産小麦を使用した小麦粉の製粉を行い、強力粉・中力粉・薄力粉などを製造している。

同社が今回取り組んだのは、PERCHが支援する新技術・新製品開発補助金を活用し、感覚に頼っていた製粉技術を、**データによってさらに高度化**する挑戦だった。粒度分布測定装置を活用しながら、製粉条件の最適化や品質向上に取り組み、佐賀県産小麦の価値をさらに磨こうとしている。

理研農産化工株式会社

RIKEN NOSAN KAKO Co., Ltd.

業種 | 食品製造業

所在地 | 佐賀県佐賀市大財北町2番1号
創業 | 1948年
従業員数 | 75名
事業内容 | 小麦粉の製粉、有機肥料の製造
主力商品 | 小麦粉・プレミックス製品
| 食用油脂・有機肥料

粒度分析による品質向上と、佐賀県産小麦の価値創出

I 粒度分布の測定が、 製粉技術を変えた

粒度分布測定装置を導入し、小麦粉の粒の大きさを数値で把握。測定データをもとにロールの強さやふるいの設定を細かく調整しながら、より良い製粉条件の研究を進めている。これまで感覚に頼る部分も大きかった製粉工程を、データによってさらに磨き上げている。



粒度分析によって、製粉技術を見える化。

II フランスパン品質の 改善へ

粒度分布と製パン品質の関係検証も進行。粒度分布を測定しながらロール調整を行うことで、フランスパンの見た目や食感にも変化が現れ始めている。クープの立ち上がりや内相の気泡など、これまで難しかった品質表現にも挑戦できる環境が整ってきた。製粉技術と分析技術の融合が、新たな品質向上へつながっている。



クープの立ち上がりや、内相の気泡にも変化が現れ始めている。

III 佐賀県産小麦粉を、 価値ある小麦粉へ

さが「きらめく」ものづくり産業創生応援事業の新技術・新製品開発補助金を活用し、粒度分布測定装置を導入。製粉条件を数値で検証できるようになったことで、品質向上や新たな商品開発への取り組みも進み始めている。佐賀県産だから選ばれる小麦粉を目指し、研究と改良を重ねている。



微細な粒度分析が、製粉条件の最適化につながっている。

これからの取り組み

理研農産化工が目指すのは、佐賀県産小麦の価値をさらに高めていくことです。今回のPERCHの補助事業を活用した粒度分布測定装置の導入によって製粉条件を数値で把握できるようになったことで、品質向上だけでなく、新たな商品開発への可能性も広がります。今後は、生産者にも「**自分たちの小麦がどのように使われているのか**」が伝わる形をつくりながら、研究と改善を積み重ね、**佐賀県産小麦の魅力をより多くの人へ届けていきます。**

理研農産化工株式会社
公式ホームページ





08

100年の技術を、 解析で進化させる。

1909年創業の株式会社唐津プレジジョンは、大型工作機械や歯車加工機を手がける工作機械メーカー。120年近い歴史の中で、一貫して精度と向き合いながら、**日本のものづくり**を支えてきた。現在注力しているのが、建機や産業用ロボットに用いられる歯車を加工する「ギヤスカイピングマシン」の開発。高効率加工を可能にする一方、高速加工時の振動や刃具摩耗などの課題も抱えていた。その課題に対し、成長型中小企業等研究開発支援事業を活用。PERCHが事業管理機関となり、佐賀大学や産業技術総合研究所との共同研究を進め、経験と解析技術を融合した新たなものづくりに挑戦している。

株式会社 唐津プレジジョン

Karats Precision, Inc.

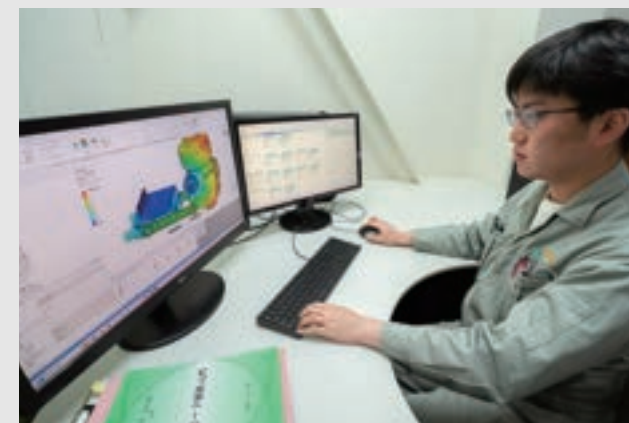
業種 | 製造業(工作機械)

所在地 | 佐賀県唐津市二タ子3丁目12番41
創業 | 1909年
従業員数 | 140名
事業内容 | 工作機械の製造及び販売
主力商品 | 超大型旋盤・大型研削盤・歯車加工機

振動解析技術による、高精度ギヤ加工への挑戦

I 解析によって、 見えない振動に挑む

ギヤスカイピングは、高速加工時の振動制御が重要となる加工技術だ。同社は成長型中小企業等研究開発支援事業を活用し、振動解析による研究開発に取り組む。実機へ振動センサーを取り付け、解析結果と実測データを比較検証。高精度加工を実現するため、解析技術を用いて目に見えない振動の可視化に挑んだ。



解析によって、見えない振動を可視化する。

II 経験をデータ化、 次世代技術へ変えていく

振動測定や数値解析、シミュレーション技術を用いて、設計段階で振動発生リスクを予測し、実機検証を重ねながら解析精度の向上につなげている。従来は経験則で対応していた加工条件や機械特性も、現在では、データをもとに検証できるようになったという。経験を継承するだけでなく、次世代技術として再構築していく挑戦が続いている。



現場と解析技術の融合が、次世代技術を支えている。

III 高精度な工作機械を、 世界に届ける

現在、同社製品の約4割は海外市場向け。価格競争が激化する中でも、日本製ならではの高精度を磨き続けている。現在は、高速スピンドル開発も進行中。従来比2倍となる主軸回転数4,000rpmの同期回転を達成し、さらなる高精度加工へ挑戦している。「日本の工作機械は、やはり精度が違うと言われ続けたい」120年積み重ねてきた技術と解析技術の融合が、次世代工作機械の未来を切り拓こうとしている。



日本の精度を支える、繊細な調整工程。

これからの取り組み

唐津プレジジョンでは、振動解析や画像解析などの技術を活用しながら、より高精度な工作機械づくりに挑戦しています。今回の成長型中小企業等研究開発支援事業による支援を機に、高速スピンドル開発をはじめ、これまで培ってきた技術をさらに磨き上げ、国内外の多様なニーズに応えていきたいと考えています。「**日本の工作機械は、やはり精度が違うと言われ続けたい**」その想いを胸に、**これからも日本のものづくりを支えていきます。**

株式会社 唐津プレジジョン
公式ホームページ



09

日本の田舎から、 豊かさを問いなおす。

株式会社suecoは、伊万里市で平飼い養鶏を中心に、加工商品開発やEC販売、飲食事業まで展開する農業法人である。主力商品の「ばあちゃんの昔たまご」を軸に、循環型農業をテーマとしたブランドづくりに取り組んでいる。代表の松本氏は、オランダ留学時に触れた**環境に配慮した暮らし**に影響を受け、平飼い養鶏をスタート。PERCHの支援による卵を活用した加工商品開発を機に、現在はEC販売、SNS発信などを通じてファンを拡大。令和4年から令和6年にかけて売上は約5倍に成長している。

株式会社 sueco

SUECO Co., Ltd.

業種 | 農業(平飼い養鶏・食品加工販売)

所在地 | 佐賀県伊万里市黒川町福田1405-1

創業 | 2022年

従業員数 | 10名

事業内容 | 平飼い養鶏業(採卵)・菓子製造業

| 飲食店営業・EC販売事業

主力商品 | ばあちゃんの昔たまご・牛乳を使わないプリンなど

循環型農業と、想いを届けるブランドづくり

I 想いを届ける、 農業へ

創業当初は、販路も知名度もない状態からのスタートだった。「卵いかがですか？」と住宅を回りながら販売を行い、毎日ブログを書き続けていたという。「なぜ、この養鶏をやるのか」その想いを発信し続けた積み重ねが、少しずつファンやリピーターを増やしていった。現在はSNSやEC販売も活用しながら、背景まで届けるブランドづくりを続けている。



一軒一軒届けた卵から、suecoの挑戦は始まった。

II 循環から生まれる、 新しい価値

出荷できない規格外の卵を活かせないか。その課題から、プリンや焼き菓子などの加工商品開発が始まった。PERCHの支援を受けながら、加工所整備や販売環境づくりを進め、ブランド力を強化。牛乳を使わないプリン、卵の味わいを活かした商品として人気を集めている。また、鶏の餌には、くず米やおからなど地域の未利用資源を活用。地域とつながる循環型農業に取り組んでいる。



循環から生まれた、新しいブランドのかたち。

III 田舎から、 未来を変えていく

現在は、生成AI活用にも積極的に取り組んでいる。社内ではAI勉強会も行われ、スタッフ全員が新しい技術に触れているという。「まずは触ってみることが大事」そう語る松本氏は、循環型農業や米づくり、福祉との連携など、田舎だからこそできる事業にも挑戦していきたいと話す。地方から新しい農業の形を発信する挑戦は、これからも続いていく。



伊万里から、新しい農業の価値を発信する。

これからの取り組み

私たちは卵だけを売りたいのではなく、「なぜこの養鶏をやっているのか」という想いまで届けたいと考えています。今後はECやSNS発信をさらに強化しながら、循環型農業や米づくり、地域との連携にも挑戦していきます。「田舎だからできない」ではなく、「田舎からできる」伊万里という場所から、**新しい農業の価値や暮らし方**を発信し、次の世代につながる農業、畜産業にしていきたいと考えています。

株式会社 sueco
公式ホームページ



10

卵から、 暮らしの価値を届ける。

本間農園は、神崎市脊振町で平飼い養鶏に取り組む農園である。2008年、100羽から始まった養鶏は、「自然とともに生きる暮らし」を形にする挑戦でもあった。鶏たちと向き合い、**人にも鶏にも負荷をかけない養鶏**を続けている。コロナ禍を機に始めた加工品販売では、「想いにふさわしい形で届けたい」という考えから、ギフトパッケージも整備。PERCHの支援を受け、ブランドの世界観を伝える形づくりに取り組んでいる。現在は、食育やファームステイにも挑戦するなど、新しい農業の価値を発信している。

本間農園

HONMA FARM

業種 | 農業(平飼い養鶏・卵の販売・食品加工販売)

所在地 | 佐賀県神崎市脊振町広滝1035-5
 創業 | 2008年
 従業員数 | 3名
 事業内容 | 平飼い養鶏、卵・加工商品の製造販売
 | 食育・体験事業
 主力商品 | ほんまの卵、プリン、おひさまケーキ、ウインナー など

命を育て、想いを届ける

I

商品だけでなく、 背景まで伝えたい

コロナ禍をきっかけに、プリンやたまごたっぷり「おひさまケーキ」など加工品販売を本格化。イベント出店などを通じてファンも増えていった一方、「商品は良いと言ってもらえる。でも、背景にある想いや暮らし方までは伝えきれていない」という課題を感じていた。特にギフト需要が高まる中、本間農園らしさを形にしたパッケージ整備の必要性を実感していたという。



農園の想いを、まちへ届ける。

II

ブランドの世界観を、 パッケージへ

PERCHの支援を受け、デザイナーとともにギフトボックス制作を開始。商品だけでなく、「どんな想いで、どんな環境で卵を育てているか」まで伝わるデザインを目指した。完成したパッケージは、単なる箱ではなく、暮らしや価値観、ブランドの世界観を伝えるを届ける入り口にもなっている。



背景にある想いまで、包み込む。

III

農業を通して、 生き方を伝えていく

現在は、卵や加工品販売に加え、ファームステイや食育イベント、若手研修受け入れなどにも挑戦している。近年は、本間農園で学んだ若者が各地で養鶏を始めるなど、新たなつながりも生まれている。「農業は仕事というより、生き方に近い」と語る本間さん夫妻。脊振の山の中から、どう生きるかを問いかけるような農業の形を発信し続けている。



農業を通して、生き方を伝える。

これからの取り組み

以前は規模を大きくすることも考えていましたが、循環を続けていくためには、ただ大きくなればいいわけではないと感じるようになりました。これからは宿泊型施設『エコベース』を拠点に、人と農業が出会う機会を増やしていきたいと思っています。「**農業は作物をつくるだけでなく、暮らし方や価値観を伝える仕事でもあります**」脊振という場所だからこそできる取り組みを続けながら、**人が集い、次の世代へつなげる場を育てていきたいです。**

本間農園
公式ホームページ



11

手づくりを守りながら、 効率化へ。

株式会社小嶋やは、どら焼きや焼き菓子を中心に、手づくりにこだわった菓子製造販売を行う伊万里市の菓子店。創業当初から手づくりを大切にし、自家製あんこを使用したどら焼きづくりを続けている。近年は卸販売の拡大に伴い、受注件数が増加。製造計画や在庫管理など、バックオフィス業務の負担が大きな課題となっていた。そこで同社では、**工程改善・受注管理のDX化**に取り組み、手づくりを守るための効率化に挑戦している。

株式会社 小嶋や

KOJIMAYA Co., Ltd.

業種 | 菓子製造販売業

所在地 | 佐賀県伊万里市山代町楠久549-2

創業 | 2017年

従業員数 | 17名

事業内容 | どら焼き、和洋菓子の製造販売

| ドレッシング、ジャム等加工品の製造販売

主力商品 | どら焼き・冷凍どら焼き・ドレッシング など

受注管理アプリ導入による、製造効率化への挑戦

I 手づくりへの、 こだわり

株式会社小嶋やが大切にしているのは、手づくりへの姿勢だ。自家製あんこは、小豆の選別から炊き上げまでをすべて自社で行い、完成までに約4日がかかる。「機械では出せない美味しさがある。だからこそ、手づくりは守りたい」そんな思いのもと、膨張剤には天然重曹を用い、保存料や着色料は使用せず、素材本来の味を活かした商品づくりにも取り組んでいる。



手間を惜しまない工程が、小嶋やの味をつくっている。

II 紙管理から、 アプリ管理へ

卸販売の拡大に伴い、受注管理は大きな課題となっていた。そこで現場力向上・デジタル導入支援事業の支援を受け、受注・製造・在庫を一元管理するオリジナルアプリを自ら作成。受注内容を入力することで必要数や在庫数をリアルタイムで把握できるようになり、製造計画の精度が向上。手作業で行っていた集計の効率化や計算ミスの減少にもつながっている。



現場に合わせた改善が、業務効率化につながっている。

III 効率化から、 新たな販路へ

現在は、冷凍どら焼きによる販路拡大にも取り組んでいる。保存料を使用していないため、賞味期限が課題だったが、補助事業を活用して冷凍庫を導入。商品のストックや出荷体制が向上し、遠方への発送や全国展開が可能になった。「新しい仕組みを取り入れながらも、これからも手づくりを守っていききたい」手づくりと効率化を両立しながら、新たな価値づくりを続けている。



手づくりを守りながら、新たな価値づくりを進めている。

これからの取り組み

手づくりへのこだわりは、これからも変わりません。一方で、人手不足や販路拡大など、取り巻く環境は大きく変化しています。その中で、現場に合った仕組みづくりを進めてきました。「**手づくりを守るためにも、変えていくべき部分は変えていきたい**」その考えのもと、今後はPERCHの支援も受けながら冷凍どら焼きによる販路拡大にも挑戦し、手づくりと効率化の両立を目指していきます。**守るべき味は守りながら、手づくりと挑戦を続けていきます。**

株式会社 小嶋や
公式ホームページ



12

水門を支え、 会社を**変**える。

有限会社小松鉄工所は、水門や水門附属設備、水管橋など、地域インフラを支える製品の製作・据付・メンテナンスを手がける鉄工所だ。農業用水や河川管理に欠かせない設備を扱い、地域の暮らしや産業を陰から支えてきた。一品一様の製品が多く、現場ごとに求められる仕様も異なるため、設計から製作、据付まで柔軟に対応できることが強みである。「お客様から相談があれば、まず現場を見に行く。**小回りの良さはうちの強みです。**」と松瀬社長は言う。長年培ってきた技術力と対応力を武器に、地域のインフラを支え続けている。

有限会社小松鉄工所

KOMATSU IRON WORKS Co., Ltd.

業種 | 製造業(インフラ設備製作・施工)

所在地 | 佐賀県佐賀市木原二丁目3番21号
創業 | 1962年
従業員数 | 15名
事業内容 | 鉄・ステンレス製品の製作、据付、メンテナンス
主力商品 | 水門、水門附属設備、水管橋
| ポンプ設置・開閉機オーバーホール・開閉機補助装置

「**変わる**」を先延ばしにしない。

I 情報発信を、 力に変える

よろず支援拠点の支援を受けながらホームページを整備し、自社の技術や強みを積極的に発信している。これまで見えにくかった仕事の内容や現場の魅力を伝えることで、取引先からの信頼向上だけでなく、採用活動にもつながっている。情報発信を通じて会社の価値を伝え、地域に選ばれる企業づくりを進めている。



会社の想いを発信し、未来へつなぐ。

II 役割を、 **明確**にする

代表交代を機に見えてきたのが、業務の属人化だった。長年の経験や慣習によって仕事が回る一方で、「誰が何を担当しているのか」が見えない部分もあったという。そこで現場力向上支援事業の支援を受け、業務フローや業務分掌を整理し、各部署の役割や責任範囲の見える化を行った。業務の整理と見える化に取り組むことで、次世代へ技術やノウハウを引き継ぐための土台づくりを進めている。



一人ひとりの役割が、ものづくりを支える。

III 働く環境を、 **未来**へつなぐ

小松鉄工所では、業務改善だけでなく職場環境の整備にも力を入れている。職場環境改善のためのPERCHの補助事業を活用し、男女共用で老朽化したトイレを男女別へ改修するなど、従業員が働きやすい環境づくりを進めてきた。現在は事務所レイアウトの見直しや休憩スペースの整備も検討中。「会社を支えるのは人」という考えのもと、人材の定着や次世代に選ばれる職場づくりに取り組んでいる。



働く人を大切にする改善を重ねている。

これからの取り組み

「**売上**が厳しくても、**環境改善**を後回しにはしたくないんです」今後は事務所のレイアウト見直しや休憩スペースの整備を進めながら、もっと働きやすい環境をつくっていきたいと思っています。また、新たな設備導入で仕事の幅を広げ、PERCHの取引拡大支援も活用し、新たな仕事にも挑戦していきます。**若い人材に選ばれる会社を目指し、利益を従業員に還元**できるよう、一つずつ取り組んでいきます。

有限会社小松鉄工所
公式ホームページ





13

見える化が、 現場を**変**える。

1956年創業の株式会社一新堂は、有田町を拠点に、高級ギフトパッケージ「貼箱」の企画・製造を行うメーカー。アパレルや洋菓子、伝統工芸品など、高付加価値商品向けのオーダーメイド貼箱を数多く手掛けている。特に強みとしているのが、多品種小ロットや複雑形状への対応力。有田焼の**梱包箱づくりを原点に培われた技術**を活かし、現在では東京を中心とした高級ブランド案件にも対応。大量生産ではできないもののづくりを支える存在として、独自の価値を築いてきた。現在は製造現場における不良管理や品質改善の見える化にも取り組んでいる。

株式会社 一新堂

ISSHINDO Co., Ltd.

業種 | 製造業(貼箱・ギフトパッケージ製造)

所在地 | 佐賀県西松浦郡有田町桑古場乙2369

創業 | 1956年

従業員数 | 15名

事業内容 | 高級貼箱の企画・設計・製造・ギフトパッケージの製造販売

主力商品 | アパレル向け貼箱・洋菓子向けギフトパッケージ

| 伝統工芸品向けオーダーメイド貼箱

不良改善に挑む、貼箱メーカーのDX

I 不良を、 見える化する

同社が課題としていたのが、不良品の数量やコストに対する管理体制だった。以前受講した「経営者塾」を通じて、改善にはまず見える化が必要だと実感。しかし当初は、現場で紙に記録し、事務側で再入力・集計するなど、アナログな管理が大きな負担となっていた。「問題意識はあっても、集計作業そのものが重荷になっていた」と振り返る。



不良を共有することが、改善の第一歩になる。

II 現場から直接入力できる、 仕組みへ

不良品の集計・管理を効率化するため、現場力向上・デジタル導入支援事業の支援を受け、現場から直接入力できる集計アプリを作上げた。iPadからリアルタイムでデータ入力・集計ができる仕組みを構築したことにより、手書き記録、事務側での再入力、会議用データ整理といった二度手間、三度手間が大幅に削減。さらに、不良原因や発生傾向も即座に共有できるようになり、現場の意識改革にもつながっている。



現場目線で使いやすい仕組みづくりを進めている。

III 改善を、 次の**挑**戦へ

不良品の集計・管理の改善に加え、「糊の濃度管理」の見える化にも取り組んでいる。貼箱製造で品質を安定させるためには、気温や湿度によって変化する糊の状態をリアルタイム把握する必要がある。従来は職人の感覚に頼っていたが、DX技術を用いて自動で糊の状態を把握できるシステムの構築に向け、支援を受けながら挑戦を続けている。



手仕事の価値を守りながら、改善を重ねている。

これからの取り組み

不良の見える化から始まった改善活動ですが、まだ道半ばです。現在は糊の濃度管理など、品質をさらに安定させるための取り組みにも挑戦しています。「**現場の負担を増やさずに改善すること**」それが私たちの考え方です。手仕事の良さを大切にしながら、現場で使いやすい仕組みを整え、品質向上につなげていきたいと思っています。これからもPERC Hの支援を受けながら、**小さな改善を積み重ね、より良い貼箱づくりを目指していきます。**

株式会社 一新堂
公式ホームページ



14

働き方を、 もっと自由に。

株式会社ソアーは、富士フイルムビジネスイノベーションジャパンの佐賀県特約店として、複合機やIT機器の販売・保守を行っており、近年はフリーアドレスの導入など自社オフィスそのものを働き方改革提案の場として活用するなど、地域企業の業務環境づくりに貢献している。また、同社は社員の福利厚生制度の充実を図るため、以前からPERCHの「中小企業勤労者福祉サービスセンター」を活用しており、社員やその家族にとっても**魅力ある職場づくり**を進めている。

株式会社ソアー

SOAR Co., Ltd.

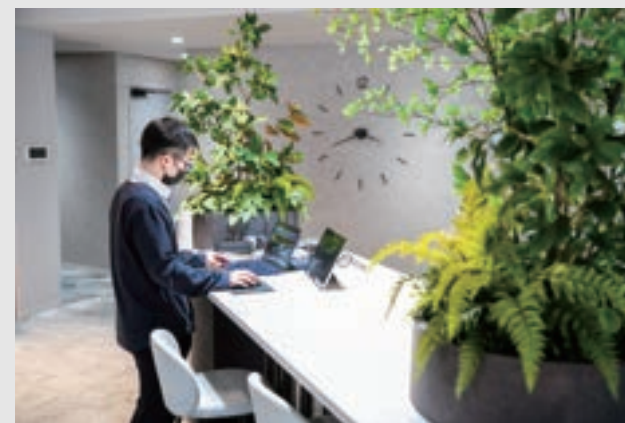
業種 | 小売業

所在地 | 佐賀県佐賀市鍋島3丁目10番14号
創業 | 1983年
従業員数 | 123名
事業内容 | 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン特約店、
| IT関連機器のコンサルティング・販売・保守、
| オフィス環境提案・働き方提案

ABWと福利厚生による、新しい働き方改革

I 働き方そのものを、 提案する

自社のオフィスにABW(Activity Based Working)やフリーアドレスを取り入れ、仕事内容や気分に合わせて働く場所を自由に選べる環境を整備。「昨日座った席には座らない」という独自ルールも導入し、社内のコミュニケーション活性化にもつなげている。事務所らしくない事務所として、県内外から働き方改革を志向する多くの企業が見学に訪れている。



変わり続ける現場に、提案を。

II 福利厚生を、 会社の**魅力**へ

同社は、長年社員の福利厚生の充実にも取り組んでおり、特に20年以上前から利用している「中小企業勤労者福祉サービスセンター」は、人材の確保や定着に大きく寄与している。会員価格で購入できる映画や遊園地チケットをはじめ、宿泊補助、健康診断助成など多様なサービスが利用でき、特に飲食店利用の補助は佐賀県内すべての飲食店が対象となるなど、地域で使いやすい制度は社員にも好評だ。



仕事内容や気分に合わせ、自由に働く場所を選べる環境。

III 社員と家族を、 **大事**にする

働きやすいオフィス環境を整備し、顧客に新たな働き方を提案する中で、プライベートでも社員やその家族が生き生きと暮らせるよう、福利厚生の制度も充実することが、モチベーションや生産性の向上、人材の確保等につながっている。



働きやすさ"を支えるのは、人と人とのつながりだった。

これからの取り組み

ソアーでは、「**働きやすさで、佐賀県No.1の会社を目指したい**」という想いのもと、社員一人ひとりが働きやすく、自然とコミュニケーションが生まれる環境づくりを進めています。福利厚生の面でも、中小企業勤労者福祉サービスセンターの活用が、長年社員やその家族の健康や暮らしの充実に寄与してきました。**今後も自社で培った働き方改革の経験を地域企業へ還元しながら、佐賀の働く環境づくりにも貢献していきたいと考えています。**

株式会社 ソアー
公式ホームページ

SUPPORT FLOW

支援フロー

経営者の皆様の課題やお悩みを、
私たちが一緒に解決します。
関係機関等と連携し、様々なサポートを行います。



01

相談



経営課題や
お悩みを
ご相談ください。

02

課題整理



専門スタッフが
内容を整理し、
課題を明確にします。

03

支援提案



課題に応じた
最適な支援メニューを
ご提案します。

04

連携・協力



関係機関・専門家と
連携し、支援を
実施します。

05

挑戦・成長



企業の挑戦を支え、
持続的な成長へと
つなげます。

CONTACT

担当窓口

各種相談・支援について、
お気軽に各担当窓口へご相談ください。

総務企画課

主な支援分野
研修室・研究開発室の貸与
・総合窓口

☎ 0952-34-4411

ものづくり振興課

主な支援分野
取引拡大・現場改善
・設備導入

☎ 0952-34-4416

技術振興課

主な支援分野
研究開発・技術支援
・産学官連携

☎ 0952-34-4413

農村ビジネス振興課 (さが農村ビジネスサポートセンター)

主な支援分野
農林水産物の加工品開発
・販路開拓

☎ 0952-34-4418

人材・経営戦略課

経営支援事業

主な支援分野
経営相談・新製品開発

☎ 0952-34-4422

よろず支援拠点

主な支援分野
経営改善・事業支援

☎ 0952-34-4433

よろず支援拠点
生産性向上支援センター

主な支援分野
生産性向上支援

☎ 0952-20-1535

中小企業勤労者福祉
サービスセンター

主な支援分野
福利厚生向上支援

☎ 0952-34-5522

Partnership

連携・協働

Empowerment

力を引き出す

Resilience

しなやかな強さ

Challenge

挑戦

Hope

希望

DX / GX / 生産性向上 / 研究開発
賃上げ / 人材確保 / 新たな市場創造

企業が挑戦するあらゆる場面において、
私たちは「鳥瞰的な視点」と
「未来へ飛び立つ力」を提供します。

PERCHは、あなたの次の一歩をともに考え、支えます。

企業のチャレンジを応援します。

🌐 <https://sagaperch.jp/>

PERCH

企業の挑戦を支え、
地域の未来をつくる。

1996-2026



公益財団法人 佐賀県産業振興機構
佐賀県産業イノベーションセンター

〒849-0932 佐賀市鍋島町八戸溝114

☎ 0952-34-4411

🌐 <https://sagaperch.jp/>

